ビデオ通信

2025 年
9 月 15 日（月）
No.4893

月・木曜日発行
月額：￥11,000（税込：￥11,880）
発行：飯澤 剛
編集：齋藤 浩一

ユニ通信社
〒114-0024
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

TREE Digital Studio × ソニー PCL

“スマートバーチャルプロダクション”を始動

横浜・イエロースタジオに「スマート VP ステージ」を期間限定で開設
「必要最小限の設備」と「高度な技術力」の両立を目指す

㈱ TREE Digital Studio とソニー PCL ㈱が、共同で“スマートバーチャルプロダクション”プロジェクトを展開している。神奈川県横浜市のイエロースタジオに、バーチャルプロダクション（VP）対応のスタジオ「スマート VP ステージ」を期間限定で開設。「TREE VFX」による効率的で一貫したワークフローと、ソニー PCL の VP における知見を組み合わせ、高効率で制作予算に柔軟に対応でき、企画や規模に応じて VP の選択が可能なスタジオ環境を構築し、これまでにないスピードと表現力を兼ね備えた VP 撮影の実現を目指す。両社では〈VP における「必要最小限の設備」と「高度な技術力」を両立させる最適なバランスを追求し、今後も多様化する制作ニーズに応えながら、VFX をより気軽に取り入れ、クリエイティブの自由度を広げる映像制作の新たなビジネスモデルを目指していく〉としている。なお、7 月末にはスマート VP ステージのデモンストレーションを実施した。

TREE VFX のワークフローとソニー PCL の豊富な VP 制作ノウハウを結合

近年、映画・CM・MV などで VP の活用が広がり、「小規模案件や一部のカットだけに VP 撮影を取り入れたい」「グラフィック撮影に VP を活用したい」といったニーズも多様化しているが、現状ではこうしたニーズに応えられる VP スタジオがなく、大型スタジオの VP 環境を使用するケースが多く、コストの負担や人員・スケジュールの制約が課題とされてきた。

“スマートバーチャルプロダクション”プロジェクトは、この課題を解決するために立ち上げられたもの。CG・撮影・DIT・撮影機材・スタジオ・ポストプロダクションなどの全工程を自社内・ワンストップで担う TREE Digital Studio の「TREE VFX」による効率的で一貫したワークフローと、ソニー PCL が「清澄白河 BASE」などで培ってきた豊富な VP 知見・ノウハウを組み合わせ、企画や

規模に応じて柔軟に VP を選択できる高効率な環境の構築を目指してプロジェクトを立ち上げた。

同プロジェクトのきっかけは、2023 年にソニー PCL と TYO DRIVE が共同制作した動画「drive」。2 台によるカーチェイス映像を全編、「清澄白河 BASE」の VP スタジオで撮影したプロジェクトで、背景アセットを TREE が制作したことから両社の連携が始まったという。

TREE Digital Studio Media Garden Div. 執行役員の齊 伸介氏は〈当社は通常の映像制作技術には自信がありますが、VP に関しては背景の 3DCG 制作など部分的には数多く手がけているものの、総合的に展開する知見はまだ十分ではありません。そのため、ソニーのハードと「清澄白河 BASE」での実績を持つソニー PCL さんと共同でプロジェクトを展開することになりました。ソニー PCL の技術とノウハウ、当社の企画力や CG ／撮影／コンポジットの技術、スタジオや照明機材などの豊富なリソース、多数の案件実績を活かし、新たな VP 制作の提案をしていきます〉と話す。

一方、ソニー PCL ビジネスデベロップメント部 統括部長の黒谷瑞樹氏は〈スマート VP ステージを最も活用いただけるジャンルは CM だと想定しています。多数の CM を手がけてきた TREE さんと話をする中で「VP スタジオにも様々なバリエーションがあっていい」という意見が一致しました〉と振り返る。

メインの LED パネルにはソニーの Crystal LED「VERONA」を採用

「スマート VP ステージ」は、横浜市都筑区のイエロースタジオ地下 B スタジオに開設した。

LED パネルはソニー製 Crystal LED VERONA（画素ピッチ 1.5mm）を採用し、正面（横 6.5m ×高さ 3m ／ 4160 × 1920px）と垂直面（横 4m ×高さ 3m ／ 2560 × 1920px）の 2 面を設置している。

また、主に照明用途に使用する可搬型 LED として、BOE 製「BTJ-XM019A」（横 4m × 高さ 2.5m ／ 2048 × 1280px ／画素ピッチ 1.9mm）も導入している。

カメラはソニーの Cinema Line「FX9」、カメラトラッキングは stYpe 製「RedSpy」、送出システムは SMODE ／ Unreal Engine nDisplay を採用した。

デモンストレーションでは、同プロジェクトの概要やインカメラ VFX ／スクリーン・プロセスの違い、ソニー PCL が提供する背景アセットサービス「BACKDROP LIBRARY」や「360° カメラカー」、スタジオスペック、VP 撮影の強みを活かした少人数キャストでの寄りの撮影や車両を利用した撮影、VP 制作のワークフローなどについて説明したほか、同プロジェクトにおけるテクニカルスーパーバイザーを務めるソニー PCL の細田昌史氏が、実際のスマート VP ステージの設備や背景アセットを使って VP 撮影についてデモおよび解説を行った。

メディアガーデンとの相乗効果も狙い

期間限定でイエロースタジオに「スマート VP ステージ」を開設した背景について、ソニー PCL ビジネスプロモーション部 マーケティング課 統括マネジャーの櫛山健一郎氏は〈「清澄白河 BASE」の VP スタジオでは比較的大規模な映画やドラマを手がけてきましたが、スタッフやスケジュール、コスト面での制約がどうしても出てきます。スマート VP ステージは、“小規模・高効率”

をコンセプトに、VP を始めるきっかけとなるようなものとして開設しました〉と説明する。

一方、齊氏は〈イエロースタジオの協力に加え、TREE が運営するスタジオの「メディア・ガーデン」との相乗効果を狙っています。例えば、メディア・ガーデンでセットを組んだ撮影を行い、車の走行シーンはスマート VP ステージで撮影するといった使い方も可能です。メディア・ガーデンのスタジオに常設すると、他社と同様の大規模な環境になってしまい、スマート VP ステージの狙いである「適切なコストで必要なクオリティを実現する」の“コスト”が大きくなり、VP を導入するハードルが高いまま残ってしまいます〉と語る。

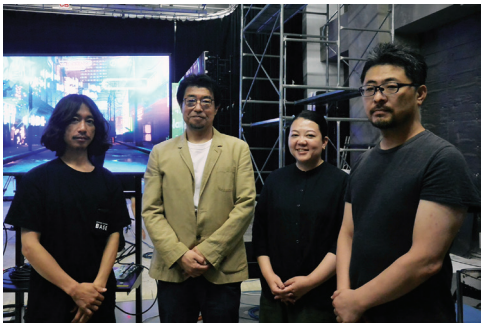
VP が“便利なツール”であることを理解してもらうためのギリギリの料金設定

今回、スマート VP ステージの使用料は 150 万円（準備 1 日＋本番 1 日）からと設定した。

齊氏は〈このスタジオに足りない部分は多いと思いますが、それこそが狙いの 1 つです。従来、VP は「すごい設備と技術で今までできなかったことを実現できる」と訴求されがちですが、VP が“便利なツール”の 1 つであることを理解していただくには、小規模かつローコストであることが必要です。事前の「撮影設計」でアングルをある程度決めて撮影することで、期間・コスト・労力を適正化できる。そうした“ツール”として利用できるような料金に設定しました。セットやロケ、ハウススタジオなど多様な選択肢の中で「この規模の VP で撮ることが適切」と考えていただけるギリギリのコスト感だと考えています。そこに足りない部分は当社とソニー PCL のソフト・技術面で補い、クオリティとコストのバランスが取れたサービスを提供していきます〉と話す。

「ドライブスルー」のような VP 制作を目指す

イエロースタジオでのスマート VP ステージは期間限定での開設だが、今後の展開は未定。


（左から）櫛山健一郎氏、齊 伸介氏、黒谷瑞樹氏、細田昌史氏

齊氏は〈「この規模でこれだけのことができる」という実例を市場に浸透させることが第一歩だと考えています。新規のお客様への提案と同時に、既存のお客様にも「ここには VP を使った方が良い」という“新たなツール”として提案していきたい。旧態依然としたワークフローを重ねることで、制作部も疲弊します。CG を含めた「撮影設計」をしっかり行い、適切なサイズと手法によって撮影することで、リスクやコスト、労力をコントロールできると考えています〉と語る。

また、黒谷氏は〈必要な部分をパッと撮ってサッと帰る。いわば「ドライブスルー」のように VP を使える環境にしたい。このコスト感であれば、作品の一部で車の走行シーンなどの制作にも活用していただけるのではないかと考えています〉。細田氏は〈今までとは違う切り口による VP サービスの第一歩〉と話している。

◇スマート VP ステージ　イエロースタジオ B スタジオ（神奈川県横浜市都筑区高山 18-25）
◇ TREE Digital Studio　https://www.tdsi.co.jp/
◇ソニー PCL　https://www.sonypcl.jp/